

令和4年度体育授業力アップ モデル校事業実践報告 「外遊びと体育授業の充実に向けて」

岡山県勝央町立勝間田小学校

全校児童数	435名
全クラス数	17クラス(うち特別支援学級4クラス)
教職員数	55名

Plan：取組時の課題と目的

1 取組時の課題

- ① 体育授業の改善
→児童の体育が嫌いな理由「運動、体育が苦手だから。運動ができないから。」
- ② 外遊びを促す取組
→児童が休み時間に外で遊ばない理由「楽しい遊びがないから。外でやることがないから。」

2 取組の目的

- ① 児童向けアンケートにおいて、「体育が好き」「休み時間に外で遊ぶ」と答える児童の割合、どちらも75%以上を目指す。
- ② 毎授業「めあての提示・ふりかえり時間の確保」ができる体育授業を目指す。

Do：取組の内容

取組にあたり、大きく4つの流れに沿って行った。

【Ⅰ：アンケートを用いて現状把握する】【Ⅱ：アンケートをもとに課題を見つける】【Ⅲ：課題を解決するための研修と取組を行う】【Ⅳ：取組の成果と新たな課題を見つける】

【Ⅰ：アンケートを用いて現状把握する】

まず、児童の体育・運動に関する実態を把握するため、児童へアンケートを行った。アンケート項目として、「体育は好きですか。+ (理由)」「休み時間に外で遊びますか。+ (理由)」「体育の授業でめあてをもって取り組んでいますか。」などを挙げた。そのアンケート結果から、体育が好きと答えた児童の割合は、全体の68%。休み時間に外で遊ぶと答えた児童の割合は、全体の65%であった。また、体育が嫌いだと答えた児童の理由としては、「運動・体育が苦手だから。」「運動ができないから。」などが挙げられ、休み時間に外で遊ばないと答えた児童の理由としては、「楽しい遊びがないから。」「外でやることがないから。」などが挙げられた。

【Ⅱ：アンケートをもとに課題を見つける】

【Ⅰ】でのアンケートをもとに考察し、2つの課題を挙げた。その2つが、①体育授業の改善②外遊びを促す取組である。また、数値目標として「体育が好き」「休み時間に外で遊ぶ」と答える児童の割合、どちらも75%以上を目指すこととした。

【Ⅲ：課題を解決するための研修と取組を行う】

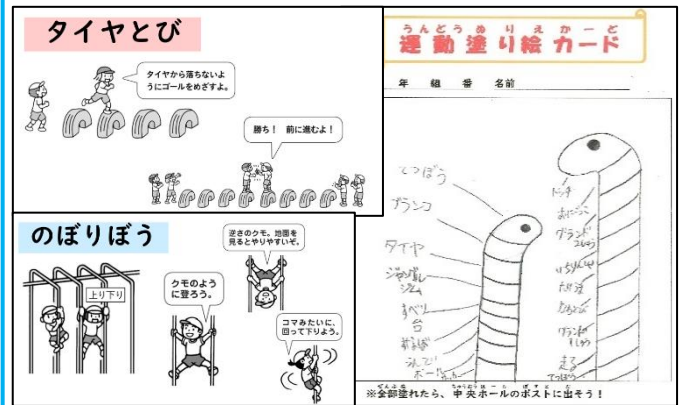
課題①：体育授業の改善

【Ⅰ】の項目で「体育なら何が好きですか(体育の6領域)」のアンケートの結果、器械運動と答えた児童の割合が6領域の中で最も低かった。そこで、岡山大学 原祐一准教授を招聘して、「器械運動や体育に関する考え方」についての研修を行った。また校内教員による「陸上運動、体育科授業の流れ」についての研修も行った。以上、夏休みに行った2つの研修を経て、2学期からは、「その単元にどんなゲーム要素があるのか」という視点をもった授業づくり「単元全体を通してのめあて設定」「ふり返り時間の確保」を確実に取り入れた授業実践を行った。



課題②：外遊びを促す取組

また、休み時間における外遊び促進に向けた取組も行った。一つ目が体育委員会による「運動習慣カード」である。カードに「鉄棒・竹馬・ボール遊び」などの項目があり、その項目に記載されている遊びをすれば、色塗りができるというカードである。様々な種類のカードを準備し、約1ヶ月間取り組んだ。二つ目が「遊び方紹介ポスター」である。遊び方を絵と文章で紹介しており、それぞれの遊具にポスターを設置した。



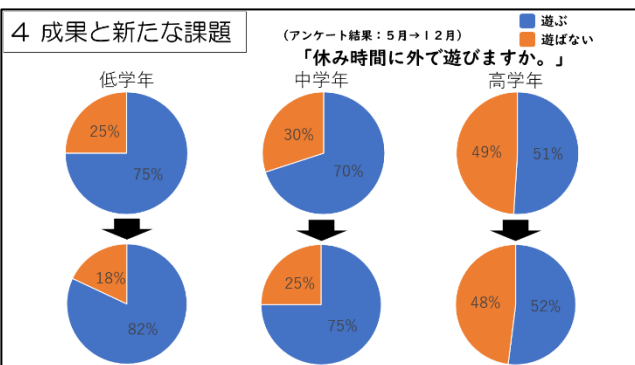
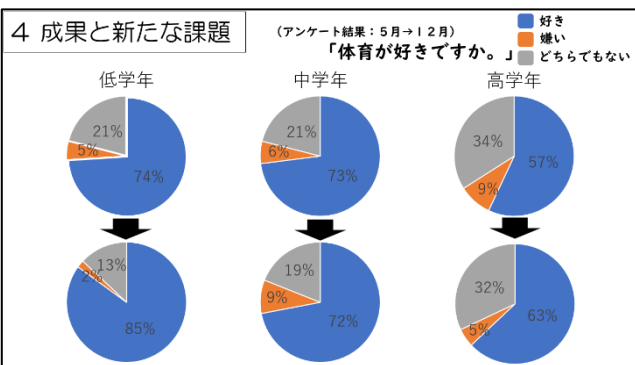
●工夫したこと

アンケートにより児童の実態を把握したことで、根拠をもった取組が行えた。体育が嫌いな児童・外で遊ばない児童の理由をもとに取組を計画したことで、取組全体に見通しをもつことができた。

Check：取組の成果

【IV：取組の成果と新たな課題を見つける①】

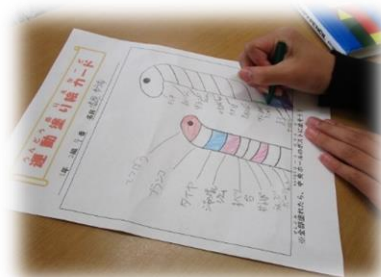
12月に【I】と同様のアンケートを実施した結果、体育が好きと答えた児童の割合は、全体の73%（前回68%）。休み時間に外で遊ぶと答えた児童の割合は、全体の69%（前回65%）であった。どちらも目標の75%には達しなかったが、多くの学年において数値の上昇がみられた。また学年別にみると、75%を大きく超えた学年もあった。ただ、学年が上がるにつれ前回からの上昇はみられたものの、低い数値となった。



Action：今後の課題

【IV：取組の成果と新たな課題を見つける②】

学年が上がるにつれ肯定的な数値が低くなった要因として、低学年の時から変わらない環境・遊びに飽きが生じてきていることや、体の発達に伴って自分にできることとできないことが区別できるようになってきていることなどが考えられる。そこで今後は、縦割り班活動などの異学年交流において、高学年が主体となって遊びを考えられるような取組を行っていききたい。そして、体を動かすことが楽しいと感じる児童の育成や運動を楽しむことができる体育の授業づくりを目指して、学校全体で取り組んでいきたい。



◎体育授業の充実がもたらす波及効果

「ふり返りの時間」を確実に取り入れた授業実践を行い、本時の成果や次時に向けた内容の記述をしてきたことが、他教科のふり返りの記述などに表れた。「運動習慣カード」や「遊び方紹介ポスター」などの取組によって、外で遊ぶ児童の遊び方の種類や幅が増えた。また学級の中で声を掛け合って、一緒に外へ出る児童が増え、児童同士のつながりの起因にもなった。